第３回庄原市立学校のあり方を考える会　会議録(概要)

日時　令和８年10月１日(木)９時56分～12時08分
場所　比和小学校、比和中学校

【出席者】

（委　員）　榊原会長、福嶋委員、倉田委員、早川委員、熊原委員、塩本委員
住岡田委員、森多委員、堀委員

（事務局）　牧原教育長、下森教育部長、森田教育総務課長、髙淵教育指導課長
天野総務係長、田辺学校管理係長、赤木学事係長、伊澤指導係長
藤岡主任主事

（９時56分開会）

１．学校視察
（１）庄原市立比和小学校
（２）庄原市立比和中学校

２．会議
（１）会長あいさつ
（２）教育長あいさつ
（３）意見交換
（４）その他
（５）閉会

＜配布資料＞
・次第
・委員名簿
・第２回会議　会議録(概要)

	１．学校視察 （１）庄原市立比和小学校・質疑応答
事務局	比和小学校長からの概要説明を受けて、質問があればお願いします。
委員	平成 20 年に４校が統合された頃は何人ぐらいいましたか。
比和小学校長	写真をご覧いただければと思います。50 名近くいましたが、それからだんだん減ってきました。
事務局	その他、ご質問はありますか。なければ説明してください。 今日参観する１・２年生は複式による授業ですが、３・４年生と５・６年生は合同授業です。国語や算数などは複式による授業をされていると思いますが、その辺りを教えてください。
比和小学校長	基本的に総合や学級会以外は複式による授業です。ですが、理科は実験もあり難しく、また、外国語も同時に行うのは難しいので、専科を設けて授業を分けて行っています。国語、算数、社会、図工、音楽等は複式による授業で、学年ごとに異なる内容で授業をしています。
委員	私の子供は小規模校に通学していましたが、当時、１年生は複式学級にはなっていませんでした。やはり入学したばかりの段階からいきなり複式学級で指導を進めるのは難しいからなのでしょうか。
事務局	学級編制基準において、3・4 年生や 5・6 年生は 16 名までが複式編制の基準となる一方で、１・２年生については８名までといった規定があり、そうしたところでの影響があったのだと考えられます。
委員	比和小学校は１年生から複式学級となっていますが、低学年から複式学級であることの難しさや現場での課題を教えてください。
比和小学校長	１年生の１学期は学校での学びを初めて進める時期ですが、複式学級では基本的に教員が２年生の指導と並行して授業を進めることになります。そのため、どうしても１年生に比重をかけながら指導を行っていく形となり、厳しい環境となりますが、そうした環境の中でも子供達は学び、育っていきます。 また、当校は８名以下であるため１年生から複式学級となっていますが、例えば３年生から複式学級になるようなケースでは、２年生の単式学級の段階から将来の複式学級を見据えた授業をしながら、複式学級に移行するのが一般的だと考えています。
事務局	その他、いかがですか。
比和小学校長	本日の授業について、１・２年生は国語の授業を行っています。３・４年生は音楽の授業で、地域の方から指導をいただきながら体育館であづま太鼓の練習に取り組んでいます。また、５・６年生の総合的な学習「比和の未来」では、特別支援学級の子供達も一緒に学んでいます。自閉症・情緒障害学級には４名の子供が在籍していますが、うち３名は交

	流学級で授業を受けているため、現在１名が国語の授業を受けています。知的障害学級の担任は、会議出席のため不在としております。 　その他、３年前まで教頭は担任を兼任しながら業務を行っていましたが、現在は県から複式支援加配として教員が１名配置されています。ただ、教頭は週 12 時間ほどの授業をもつことになっており、教頭業務を行いながら授業もしています。仮にこの加配配置がなくなった場合は、教頭が学級担任を持ちながら教頭業務をすることになります。また、学校事務職員についても県費負担での配置がないため、市費負担で配置していただいている実状があります。
委員	養護教諭について、昨年度までは中学校との兼務体制でしたか。
比和小学校長	令和７年度は中学校が市費会計年度任用職員での配置のため、16 時までの勤務でした。そのため、16 時以降に何かあればうちの養護教諭が対応する体制でしたが、今年度は比和中学校に県費で養護教諭が配置されたため、中学校との兼務体制は解消されています。
事務局	市全体における養護教諭や事務職員などの定数は、学校規模や学級数に応じて県により決定されます。そのため、制度上の基準により人員が不足する小規模校に対しては、市費で補填を行う場合があります。具体的には、市費会計年度任用職員を配置するなどの措置を講じています。勤務形態によっては、前年度のように勤務時間の隙間が生じるため、その時間帯を県費負担の職員が補うことになります。こうした配置の工夫や補填体制は、他の小規模の学校でも必要に応じて行っています。
委員	外国語指導助手(ALT)は、どのくらいの頻度で勤務されていますか。
比和小学校長	３・４年生、５・６年生を中心に週２回ほど来ていただいて、１年生は月に１・２回程度です。
事務局	ありがとうございました。続いて、授業見学に移りたいと思います。 　～比和小学校授業見学後、比和中学校へ移動～ （２）庄原市立比和中学校・質疑応答
事務局	概要説明及び授業見学を終えて校長先生に質問があればお願いします。
委員	授業見学をさせていただき、生徒の皆さんは静かな環境で落ち着いて、集中して授業をされている印象を受けました。授業は、少人数ならではの強みを最大限に活かし、教員１名が担当する子供の人数が少ない分、一人一人に対する指導や関わりが非常に強いと感じました。 　統廃合について、子供達の本音や、保護者がどういった思いを持たれているか分かっている部分があれば、教えていただけますか。

比和中学校長	生徒や保護者から統廃合への思いを聞いたことはございません。 生徒数について、中学校へ進学する際に学年によっては転出等に伴い人数が変動することがあります。先ほど理科の授業で参観いただいた学年(女子生徒４名)も、小学校時代は８名おりましたので、入学当初は寂しさもあったかと思います。また、別の学年の男子生徒１名も、以前は３名おりましたが転出により１名となり、人数の少なさによる寂しさはあるものの、毎日頑張って勉強しています。学力面に関しては、個別対応のため着実に向上していく強みがあります。しかし、中学校は人間形成の時期だと思っており、勉強だけであれば他でもできることを考えると、幅広い人間関係を経験する機会が限られる中学３年間が、子供達の成長において有益か不十分かと問われれば、私は不十分な面が大きいのではないかと思います。
委員	卒業生の進路状況について､年度によって違いはあるかと思いますが、自宅外通学となる遠方の学校を進路として選択するケースが見受けられます。子供達の普段の様子や意識、傾向として、なぜあえてそうした遠方の進路を選ぶのか、子供達から聞かれている理由や背景などがあれば教えていただけますか。
比和中学校長	子供達から理由を聞いたことはありませんが、今回委員の方々がお越しになるにあたり、過去 10 年ほどの卒業生の進路状況を確認しました。すると、自宅外通学となる遠方の学校も含め、県内外を問わず私立・公立高校や高等専門学校など多岐にわたっており、多様な地域へ進学している実績があります。中学校を卒業したら家から通うのは難しいと考えているのではないかと思います。
	２．会議 （３）意見交換
会長	それでは、次第に従いまして、意見交換に入ります。 その前に、前回、中国新聞の話をしましたが、新聞を見ると、西城中学校生徒が「少年の主張・話し方大会」で県知事賞を取られていました。県知事賞は１人だけだと思います。大変素晴らしいことです。また、比和小学校では藍染め体験をされており、とてもいいことだと思います。一方で、国勢調査の発表で庄原市の人口速報値と確定値を比較すると、予想を上回り 311 人減っていたことに驚き、私自身も少子化について危機感を覚えました。前回、次年度以降の児童生徒数一覧表をいただきましたが、この通りにはいかない、あくまでも推定値なのだと改めて思いました。 さて、本日は小規模校の現状について、委員の皆さまに視察していた

	だきました。感想や意見がありましたらお願いします。まず小学校について気付きを述べていただき、次に中学校についてとさせていただきます。
委員	私は、以前、教育委員会事務局に勤務しており、小中学校訪問をしていました。当時(10 年前)と比べて子供達の数がかなり減少している印象を受けました。また、子供達が話し合う場面や対話で新しい考えを知る授業の設定をしますが、本日は参観者がいた影響はあるものの、多様な意見が出てきにくい寂しさを感じました。これは以前から学校訪問をする中で抱いていた思いでもあります。教員の指導も重要なことですが、一定の集団規模の中で、多様な意見を聞いて、「そういう意見もあるのか。でも、私はこう思う。」といったやり取りは物理的には出来にくいのかと各学校を訪問し思っていました。今日も同じようなことを小中学校通して感じました。しかし、校長先生がおっしゃっていた少人数で頑張る良さも見えました。子供達の学力については、子供の実態から工夫をして指導ができることもあります。
委員	小学校の授業を参観して強く感じたのは、複式学級指導の難しさです。特に１・２年生の授業では若手の教員が工夫して指導にあたっておられ、授業の進行パターンを確立されている様子が見受けられましたが、授業のリズム感や授業の進め方には、相当なテクニックが必要になると感じました。少人数の強みは一人一人の習熟度に応じた教科学力をつけられる点だと思います。しかし、子供達は多様な人々との関わりの中で、「あのようになりたい」「こうありたい」「もっと勉強する必要がある」といった刺激を受けながら、人間性や社会性を培っていき、多様な経験の中で成長していくものだと思います。高校に通っている小規模校出身の子供達は、純粋で素直な子が多く、何事にも一生懸命立ち向かう傾向にあると思います。一方で、社会的な脆さを抱えていて、そういう面で言うとこれからの多様で変化の激しい世の中を生きるために、もっと逞しくなってもらいたいです。丁寧な指導が行われているからこそ、子供達をもう少し鍛える方法、そういった場は何かないのかというのが正直な印象です。
委員	お二方がおっしゃった内容と同じで、特に１・２年生の授業の難しさを私も強く実感しました。本日参観した授業は、しっかりされていたように見えましたが、１年生は学校での学習自体が初めてであり、学年による集中力の差や学習内容の違いがある中で、双方を同時に進行させていくには相当な指導技術が求められると思います。そうした中で、教員からの子供一人一人への指導は丁寧であると思いました。また、３・４年生があづま太鼓の演奏を披露してくれましたが、地域の方が指導に携

	わっておられ、前回の会議でも話題になりましたが、小規模校であるからこそ地域との繋がりが、より一層強固になっており、ここは大きな強みであると再確認しました。一方で、大人と子供達との繋がりが強い反面、子供同士の対人関係においては課題も感じられます。先ほど中学校進学時の話もありましたが、同級生が少ない環境では、友達を増やしたり、喧嘩やその後の仲直りを経験したりといった日常的な社会経験の機会がどうしても限られます。そのため、中学校進学後に集団規模が拡大したり、人間関係の摩擦が生じたりした際に、受ける影響や衝撃が強すぎるのではないかと今回の授業を見て思いました。
委員	少人数や複式学級の良さを生かした学習は確かなものになっていると感じました。先生とマンツーマンだったり、居眠りしたりすることもできないので学力はつくと思いますし、とても手厚い指導は感じましたが、やはり少人数であるがために、たくさんの子供達の学び合いなど、色々な意見を聞いたりする場面は少ないのではないかと感じました。
委員	少人数では子供同士のコミュニケーションは限られると思いますが、それだからこそ出来るやり方を大人が考えてあげればいいかと思います。皆さんが言われているご意見はごもっともな意見だと思いますが、少人数ならではの良いところはたくさんあり、いいところや変えたらいいところはすでに分かっていることだと思います。他の学校もそうだと思いますが、良い悪いというか、もうちょっとこうしてあげたらいいという意見が私たちだけじゃなく、地域の方や先生方、子供達からも出て、何をどういった学びがしたいかなど、他の学校と関わりがあるようにさせてあげるなど、子供達の意見もどこかで、聞いてあげる場面があればいいのかと思いました。
委員	初めて比和小学校、比和中学校を見させてもらって、特に中学校は人数の少なさに驚きました。印象的だったのは、目標にしておられる「少人数を生かす」というところに、先生方が工夫と配慮をしておられると感じ、生徒との距離や役割などにとても配慮されて、取り組んでおられると思いました。質問になりますが、子供達は素直で一生懸命に授業を受けていると思いますが、学力・学習以外のところで、何か葛藤や困ったことに出会ったときに、それをどのようにして乗り越えているのでしょうか。そういったエピソードがあれば、教えてください。
会長	現職の校長先生もいらっしゃるので、全ての委員さんの意見、感想を聞いた後にお聞かせいただければと思います。また、教育委員会の方でもそういった情報があればお願いします。
委員	今日見させてもらって、自分の考えが変わってきたと思っています。初めは少人数での学校教育は限界があるし、やはり子供達はたくさんの

	人数の中で、揉まれていかなければ、色々な意味で社会生活も身に付かないことがあると思うし、実際に１学年１人など、一体どういうことができるのか疑問がとてもありました。でもそれはそれなりにきちんと対応されていて、本人が希望すれば別ですが、あえてそういった環境を無くして、全部を淘汰するというか、小規模校をなくしていく考え方もいかがかと思うくらい、今日の先生方の指導なども含めて胸を打たれた形で拝見させていただきました。
委員	１・２年生における複式学級の難しさを短い時間の中でも強く実感しました。やはり入学したばかりの１年生にとって、いきなり複式学級の環境の中で集中して学びに取り組むのは非常に困難な側面があると感じます。教員は落ち着いた様子で授業を進めておられましたが、その背景には大変な苦労があるのだと思います。学級編制の人数基準等の規定はあると思いますが、小学校に入学したばかりの時期については、複式学級ではなく単式学級で、学べる環境を整えてあげたいと思いました。
会長	似通った点もあるかと思いますが、中学校についてのご意見は何かありますか。
委員	先ほど校長先生がいらっしゃる際にお尋ねすればよかったのですが、小中学校ともに、総合的な学習やマンツーマンでの手厚い指導により、子供達の確かな学力や豊かな心の育成に繋がっているとは思うのですが、体育の授業をどのようにされているのかをお聞きしたかったです。私はここより規模の大きい学校で指導をしており、どうしても多人数での授業と比較してしまいます。３年生の保健体育のノートを見させていただくと、知識の部分はしっかり授業されていましたが、体育は 105 時間の単位があり、その中でバレーボールやバスケットボールなど球技を含む集団スポーツをされており、その実技の部分をどのようにされているのか聞きたかったです。１学年単独というよりは、おそらく３学年合同で体育を行っているのではないかとは思います。
会長	それでは、先程質問があった教科学習以外の悩みなどのことについて教えてください。
委員	教科学習以外の生徒指導や教育相談、生活面などについて、多人数と少人数を区別して捉えたことはありませんが、子供達の出す小さな変化やサインに気付きやすいのは、経験上、少人数であると感じています。人数が少ない分「今日は少し表情が暗いな」といったことに気付きやすいのですが、多人数でも気付くことはあるため、こうだと断定はできませんし、教職員の力量にもよります。教職員が毎日子供一人一人をどこまで深く見ていくかなので、多人数でも少人数でも区別はつけていません。ただ、普通に考えると少人数は保小中とずっと同じ集団なので、人

	間関係がきっちり決まっているパターンが多く、３人グループが急に２人になるといった変化が顕著に表れやすく、分かりやすくなります。
会長	子供達が友達関係などで悩んだ時に誰に相談しているか、アンケートがあったと思います。教育委員会で把握していることなどあれば、教えていただけますか。
事務局	比和小学校、比和中学校に限らず、意識調査では、「相談しやすい人は誰か」という問いに対して、保護者や兄弟・姉妹、友達といった身近な人を挙げる回答が多く見られます。小学生から中学生へと成長するにつれて、進路の悩みや身体の変化など、様々な課題が出てきます。先ほど校長先生からもお話があり、また９月議会でも子供達の心身や健康の状況を適切に把握することが重要だとご指摘をいただきました。国でも検討会が開かれ、不登校等の取組を進めておりますが、どんどん増えている状況にあります。そうした中、中学校では、「デイリーノート(日記帳のようなもの)」を活用し、担任が一人一人丁寧にコメントを返しながら関わりを深めています。また、中学校は教科担当制になるため、気になる子供の様子については、次の授業の教員へ確実に引き継ぎを行う体制を整えております。さらに、思春期を迎える中学生では、養護教諭との繋がりが深まったり、スクールカウンセラーへ相談したりするケースも多く見られます。もちろん最も大切なのは、まず担任が日頃から子供達の様子をしっかりと観察し、必要に応じて本人や保護者、友達と十分に対話していくことです。子供同士の関係性では、小規模校だからこそ言葉にしなくてもお互いを理解し合える良さがある反面、一度関係がこじれてしまうと修復が難しく、その後の人間関係に影響が残りやすいという小規模校特有の傾向もあります。このように規模の大小にかかわらず、様々な方法や手段を取り入れながら、子供達の状況をきめ細かく見守り、一人一人に寄り添った支援に努めています。
会長	他に何かありますか。先ほどのお話にもありました規模の大きい学校との比較に関連して、本日は小規模校を視察していただきました。もし委員の皆さまから「規模の大きい学校の様子も見てみたい」というご意見がありましたら、今後の視察日程等での実施を検討したいと考えておりますが、いかがですか。視察する場合は、庄原中学校となりますか？
事務局	中学校で最も規模が大きいのは庄原中学校で、その次が東城中学校となります。小学校はすべて小規模校ですが、その中でも最も大きいのは、庄原小学校で約 300 名です。庄原中学校は約 400 名です。
会長	全体として委員会の開催回数も限られておりますので、もし可能であれば、庄原小学校と庄原中学校の２校について、今後の視察先としてご検討いただけますか。必ず実施してほしいと強く求めるものではありま

	せんので、無理のない可能な範囲で対応をお願いします。
事務局	承知しました。2校の視察を行う場合、移動や時間設定の課題が生じ、昼間の時間帯となりますと参加できる委員の皆さまが限られてしまう懸念もございます。 また、実際に訪問させていただくとなると、単に校舎を見るだけでなく、子供達の実際の様子や授業、活動風景を参観していただく形になるかと思いますので、そうした点も含めて学校側と日程調整を行います。
会長	実際の授業や活動の参観となると日中の時間帯となるため、お仕事などのご都合がある委員の方々には無理をお願いすることになるかと思います。そうした事情やご負担にも十分配慮した上で、事務局にて日程調整を進めていただけますようお願いします。
事務局	分かりました。
会長	私がもう一つ気付いた点としましては、前回も申し上げました通り、私たちが今進めている議論の根底にあるのは「ふるさと(庄原市)」への思いです。庄原市教育振興基本計画にも「ふるさとの学びを原動力として」とあるように、私たちは庄原市全体の教育について話し合っています。志を持ち続け、将来活躍できる人材を育成するためにも、委員として「ふるさと」を意識した取組をぜひ大切にしていただきたいと考えています。 前回の意見をまとめた資料でも、どのような力を育むべきか、どのような学校を目指すべきかという点で、「自分や他者を大切にして、人との繋がりができる力」の重要性が多く挙げられておりました。確かな学力はもちろん必要ですが、それ以上に他者と円滑にコミュニケーションが取れる力を重視する声が数多く出ております。本日視察した比和小学校をはじめ、小規模校の現状を踏まえますと、そうした現実にある実態を無視することはできません。今ここにいる子供達のために大人として何ができるか考えた際、やはり重要なのは「合同授業」や「交流」であると思います。これは他校との合同授業や地域との交流活動で様々な人との関わりを通じて、いまの目の前にいる子供達の世界を広げ、外部の力を借りながら育てていくことが必要です。 また、対面での実施がどうしても困難な場合には、本日の中学校でも見られたように、ICT 機器やタブレット端末を活用することも一つの有効な方法となります。しかし、子供達にとって最も望ましいのは、やはり「対面での交流」です。特に小学校低学年においては、画面越しのやり取りではなく、身近な子供同士の触れ合いや関わり合いが何より重要だと思っております。近隣の小学校同士で行き来するなど、直接交流できる機会を積極的に作っていくことで、現在の子供達が将来困ることのないよう、コミュニケーション力を育んであげることが大事だと思います。こうした対面での繋が

	りやICT活用も含めた支援のあり方も踏まえて、次回も引き続き皆さまと意見を交わしてまいりたいと思います。予定時間となりましたので、このあたりで意見交換を終了させていただきたいと思いますが、よろしいですか。
委員	１点よろしいですか。修学旅行などは他校の小規模校と一緒に行ったりすることはないですか。
事務局	小学校の場合、例えば東城では近隣の小学校と一緒に行っています。一方で予算の面もあるので、できるだけ多人数で参加したほうがいいと働きかけはしていても、お金がかかっても単独で行かせてほしい、という保護者からの意見もあります。また、２年に１回、５・６年生で行く学校もありますが、同じ学校でも学年によっては、６年生は６年生だけで行かせたいという意見もあります。これは教育委員会側が一方的に決定するのではなく、最終的には保護者と学校側が十分に相談した上で判断していただいております。また、中学校へも隣の学校と合同でしたらどうかと働きかけはしていますが、そこは学校と保護者との話し合いの中で決めることで、こちらから「こうしてください。」とは言っていません。正直なところ参加人数が少なくなればなるほど児童生徒一人あたりの費用負担は高くなります。また、本来修学旅行の目的には集団での宿泊を伴うという大きな狙いがありますが、それができるかどうか、また、最近の修学旅行では目的地に行って、自分たちの学習のテーマを事前に調べて行き、それを後日発表することが出来るのかどうかを考えた時には、もう少し多人数で行くことが望ましいという考えがあります。最終的には学校と保護者との話し合いの中で決めています。
会長	他に何かありますか。
事務局	会長からのご意見にもありましたように、庄原市内の小学校はすべて小規模校という現状がございます。各学校が独自に行うだけでなく、市全体という大きなスケールで取り組むことで教育の質の高まりが期待できるのであれば、そうした機会を積極的に作っていくべきだと考えています。 例えばスポーツ面で言えば、小学校の陸上大会や水泳大会のように、一堂に集まって認め合い、競い合い、他を見て学ぶことは、児童にとって非常に大きな意義があります。また中学校では、合唱コンクールなどの行事を通じて他校の様子を知り、互いに学び合うことができます。中学校でも学校合同での発表機会などがあってよいのではないでしょうか。 ただし、すぐに導入するのではなく、狙いや目的をしっかりと共有しながら、校長会など学校の代表とも十分に対話を重ねて進めてまいりたいと考えています。
会長	ぜひお願いしたいと思います。私も行事を市内の学校全体で組むのは

	大賛成です。やはりそこの段階で他者を知るという、子供には主体的・対話的な深い学びで人格形成に繋げていくことが必要だと考えますので、できるだけ子供達のためにそうした場を整えることが望ましいと思います。 　それでは、以上をもちまして、第３回庄原市立学校のあり方を考える会を終了させていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。